

5) 沖曳網で混獲されたニゴロブナ小型魚の再放流による経済効果

根本守仁

【目的】

冬季におけるイサザ・ワカサギ等を漁獲対象とした沖曳網漁業ではニゴロブナ小型魚が多数混獲されるが、平成9年度の調査では11月から1月の2ヶ月間に当歳魚資源尾数が2/5に減少しており、沖曳網による小型魚の混獲が資源を減少させる一要因であると考えられている。今後、ニゴロブナ資源を増やすには、漁業者に対してニゴロブナ小型魚の再放流の効果を啓発し、再放流を徹底することが重要である。そこで、これまでに得られた知見をもとに、ニゴロブナ小型魚の再放流による経済効果を推定した。

【方法】

平成9年度冬季における沖曳網によるニゴロブナの漁獲結果をもとに、再放流後の生残率を50%と設定し、これまでの標識放流調査結果から得られた知見から翌年冬季までの自然減耗や成長から再放流による資源増大量を推定し、経済効果について検討した。

【結果】

- ①沖曳網で漁獲されたニゴロブナのうち全長15cm以下のものは、尾数では60.4%、重量では30.9%を占めていた(図1)。
- ②全長15cm以下のニゴロブナのうち、尾数では夏季に放流されたものが7.7%、晩秋季に放流されたものが60.6%を占めていた。そして、それらの冬季までの生残率および生産単価(人件費、飼料費等)から沖曳網で漁獲されたニゴロブナ1kgに対して投資されたニゴロブナ生産費用を算出したところ、3,150円となった。
- ③全長15cm以下のニゴロブナ1kgを再放流すると、翌年冬季には2.28kgになると推定され、単価が高い時期に漁獲されるとその金額は6,045円となると推定された。

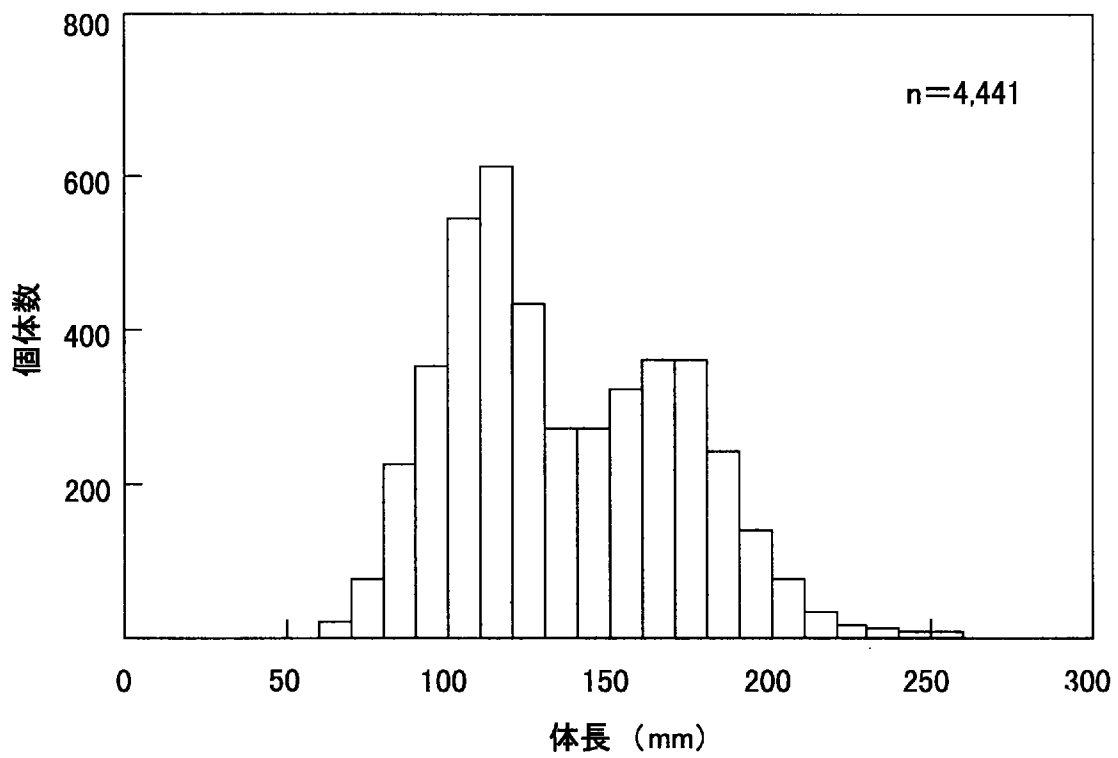


図1 沖曳網で漁獲されたニゴロブナの全長組成